

ヘルパーステーションだいとう だより



No.54 2016年7月号発行

新しい総合事業におけるホームヘルパーのあり方

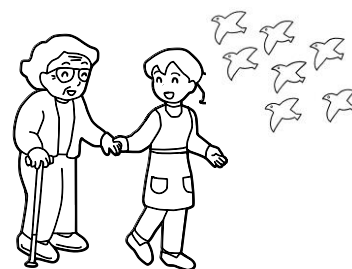
徳島文理大学保健福祉学部人間福祉学科
講師 藤田 益伸

私は4月から徳島文理大学の講師として社会福祉士の養成に携わっています。これまでの在宅医療・介護に関わった経験をもとに在宅ケアの魅力を学生に伝え、地域包括ケアの担い手を増やしたいと考えています。

さて、生活支援の充実、高齢者の社会参加・支え合い体制づくり等が謳われた新しい総合事業が始まります。特に、介護予防の訪問介護・通所介護が国の介護保険サービスから外れました。新しい総合事業では、現行の訪問介護の他に、NPO・民間事業者等による掃除・洗濯等の生活支援サービス、住民ボランティアによるゴミ出しという訪問型サービスが例示されています。

新しい総合事業によって訪問介護がどのように変わのでしょうか。身体介護のような専門的なサービスを必要とする人には、訪問介護員による専門的なサービスの提供を、生活援助等は多様な担い手による多様なサービスの提供を、という流れが想定されます。つまり、生活支援のためのサービスは、ホームヘルパーの有資格者に限定せずにボランティアでも誰でもいいとして、現行の訪問介護は身体介護に限定していくわけです。

将来的に訪問介護の生活援助サービス自体を外していく案も提案されています。



利用者の生活を支える訪問介護の専門性を真っ向から否定されていると思われる方も多いでしょう。しかし、今は決定された制度を批判するよりも、ホームヘルパーにしかできない専門性を明確にする方が大切だと私は考えます。訪問介護の専門職として身体介護の技術向上、認知症の方への適切な対応、介護者家族の支援、在宅医療や他職種の役割の理解と連携などが今後さらに求められるでしょう。専門的な介護には根拠が不可欠です。日々の業務をこなすことだけにとどまらず、なぜその支援が必要なのか、その根拠を口頭で説明できるようになることが大切です。まずは利用者のケアプランを読んで利用者の希望する生活のあり方を理解すること、そのために訪問介護の目標として何が求められているかを把握することから始めてみてはいかがでしょうか。

なお、新しい総合事業は、市町村が基準や単価等を定めて地域の実情に応じた独自の対応を行う一方で、介護サービスの地域格差を広げる恐れもあります。地域の担い手が不足する現状で、果たしてどこまで実効性のある事業を実施できるのか不明瞭な部分も残ります。今後の動向を注視しておく必要があります。

最後にお知らせですが、

9月24・25日に、神戸コンベンションセンター国際会議場にて「黒田祐子記念 神戸フォーラム2016」が開催されます。

がんでも認知症でも住み慣れた地域で暮らす町づくりを目指して、講演会、シンポジウム、ワールド・カフェ等の様々な催しを企画しています。これからの訪問介護の実践にとって実り多い研修会になること、請け合いです。在宅ケアに係わるメンバーとケアについて語り合ってみませんか。



今回掲載にご協力して頂きました方々ありがとうございました。

利用者様の声、家族介護等の日常のエピソード、俳句・短歌・川柳・詩・挿絵、制作作品の写真等々ございましたら掲載させて頂きたいと思っておりますので、皆様、ご協力の程宜しくお願いします。

ヘルパーミーティング

4月



新年度を迎えて事業計画の説明や接遇についての話し合いを行いました。サービス提供責任者のスキルアップやヘルパーさんの働きやすさ、事業所の全体的なスキルアップを目指す事を本年度の事業計画としました。グループワークでは日常的に接遇ができていのかどうかを振り返る機会となりました。挨拶や身だしなみなど目に見える接遇ができていのかということを利用者の方に対する接し方のものさしになるのではないかという事を確認し合いました。

5月



人権や理念について話し合いを行いました。日常のヘルパー業務から人権について考えました。「利用者の支援」を行う中で支援する立場と支援される側という関係性ではなく、「利用者の目標支援」するチームである事を確認しました。チームが同じ立場でそれぞれの役割を發揮できるようにする事は人権にもつながっている事が分かりました。

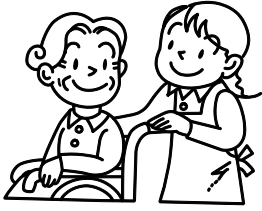
6月



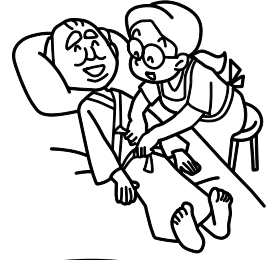
利用者アンケートの報告ややりがいのある職場作りについてグループワークを行いました。アンケートの回答はケアレポートの中で行っていますが、たくさんの改善点などのご意見を頂きました。そういった意味で私達はとても期待されている存在である事を話し合いました。

また、働きやすさややりがいにつながる私達の仕事について話し合いを行いました。具体的な内容についてはこれから検討に入りますが、「仕事をしていてよかった事」や「うれしかった事」が仕事を続ける大きな動機になっているようです。





ひやい・ハッピ



入浴介助

浴槽からあがる時、脱衣所の足拭きマットがすべり、転倒しそうになりひやりとしました。



すぐに後ろから支えたので、転倒にはあたりませんでした。
滑り止めが付いてないマットもあるので常に危険予測をし、十分配慮を払いましょう。

通院介助

受診後、「薬をもらってくるから椅子に座って待っていてね」と声掛けをし薬をもらいました。その後、タクシーを呼ぼうと玄関に出ました。気がつくと利用者様が私の方へ歩いて来られてました。



薬をもらった後、「タクシーを呼ぶね」と声掛けをしなかったため、利用者様はヘルパーが帰ってしまうのではないかと付いて来られたようです。
目配り・気配りを忘れないようにしましょう。

家事援助

食器棚からお皿を取り出そうと、お皿を引っ張ったら、重なって見えなかったお皿が落ちてきました。



お皿が割れるには至りませんでしたでしたが、重なっているお皿に気付かず見えているお皿だけを引っ張ったようです。慣れてるお宅こそ、常に細心の注意を払うようにしましょう。

生活援助

買物はプランに入っていないことを忘れて、買物の依頼を受けようとしてしまいました。



買物の前に責任者に連絡確認し、買物はプランに入っていないことを指摘され購入には至らず。良かったと思っていたが、軽い気持ちで受けたことを反省し、利用者様にも説明し納得していただきました。

訪問時間

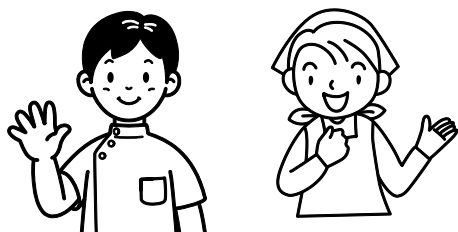
ヘルパーとの連絡ノートに「次回の訪問は中止してください」と家族様の記載があったにもかかわらず、読んでいたヘルパーが事務所へ報告するのを忘れていました。たまたま、家族様が中止当日の朝、事務所に電話を下されたので、その日の中止が発覚。家族様からの連絡がなければ担当ヘルパーが訪問するところでした。



家族様とヘルパーの連絡ノートには大切なことが記載されているのでしっかり目を通し、忘れないように報告するよう注意しましょう。

家族様には以前から中止の連絡は事務所に直接電話でお願いしていましたが、うっかりしていたと話される。

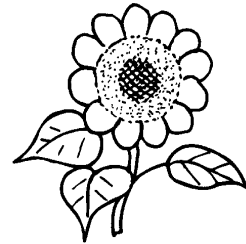
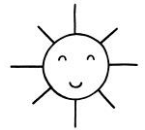
「連絡・報告」を怠らなければ今回のようなことにはならなかったのですが、再度このようなことがないよう気を付けましょう。



じめじめした梅雨、あつ〜い夏の介護で気を付けたいこととは？

寒くて乾燥しがちな時期はインフルエンザなどの感染症に要注意！でしたが、これからの時期もまだまだ気は抜けません。

梅雨〜夏に気を付けたいポイントをまとめてみました。



1：「蒸れやかぶれ」に注意

梅雨から夏の**高温多湿の環境**で起こりやすい「蒸れ」。

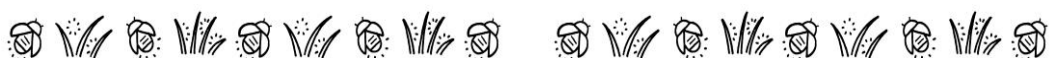
肌のバリア機能が衰えている高齢者の方の場合、**蒸れから始まるおむつかぶれに要注意**です。

おむつ交換をまめに行うのはもちろん基本ですが、頻繁に行うのが難しい場合は、ある程度排せつ頻度を把握しておくといよいでしょう。そして入浴ができない場合は**1日1回の洗浄**。便に潜む細菌が増殖することもありますので、次の3ステップを参考にしながら皮膚のしわなど細かい部分まで丁寧に洗ってください。

- ・ 1. ガーゼや蒸しタオルで軽く拭く
- ・ 2. 石鹸をつけたタオルで拭き取る
- ・ 3. ぬるま湯で洗い流す



洗浄後はしっかり水分を拭き取って乾燥させます。どの手順の時も、こすらずに「ポンポンする」のがポイントです。



2 : 「脱水や熱中症」に注意

ただでさえ脳梗塞を起こしやすいといわれるこの時期。体が脱水状態になると血管が詰まりやすくなるため、さらにそのリスクは上がります。特に脱水になりやすい高齢者には、1日1.5Lを目安に積極的に水分をとってもらいましょう。普段はお茶や白湯など、その方が好まれるもので構いません。ですが、「わきの下が乾いている」「口の中や唇が乾燥している」「腕の皮膚を持ち上げて放すとシワができたまま」は危険信号。経口補水液の摂取や、医療機関の受診を考えてください。

また、熱中症対策も欠かせませんから

エアコン（28度が目安）や扇風機で室内の温度を保ちましょう。

すだれや遮光カーテンを利用すれば見た目にも涼しげですね。



3 : 「呼吸器系疾患」に注意

この時期、意外と多い呼吸器系疾患。特に警戒したいのが5月～10月の長期間にわたって患者が増える「夏型過敏性肺炎」です。これは冬場の風邪やインフルエンザとは違い、「カビ」や「ダニ」が原因で起こるもの。湿気がカビを呼び、カビがダニを呼ぶのです。

まずはカビ対策として、室内の換気をまめに行うこと。部屋の湿度は60%前後が理想です。そしてカビのエサ（残飯やお菓子など）を置きっぱなしにしないこと。これで、カビをエサにしているダニが増えにくい環境になります。そしてダニの付きやすい布製品（座布団やシーツ）も、まめに洗濯して天日干しするようにしましょう。



電子レンジで作る和風マーボー豆腐



材料

- ・ 豚挽き肉 100g
- ・ しいたけ 2枚
- ・ 万能ねぎ 3～4本
- ・ しょうが 1かけ
- ・ ※しょうゆ 小さじ2杯
- ・ ※味噌 大さじ1杯
- ・ サラダ油 小さじ2杯
- ・ 豆腐 1丁（300g程度）
- ・ 塩 少々
- ・ お好みで一味唐辛子

- ・ このレシピは500wの電子レンジを目安にしていますが、お使いの機種により加熱時間は前後する可能性があります。
- ・ 金属ボウルは使えません。耐熱容器や電子レンジ対応の食器をご使用下さい。

下準備

- ◎ しいたけは石突をとってみじん切りにします。
- ◎ しょうがはみじん切りにします。
- ◎ 万能ねぎは白い部分はみじん切り、青い部分は2センチの長さに切り、別々にしておきます。

作り方

- ① 豆腐は1センチ角に切ります。やや深めの耐熱の器に入れ、塩を少々ふり500ワットの電子レンジで2分。ザルにあげ余分な水分を切ります。
 - ② ①で使った器に、豚挽き肉・みじん切りにしたしいたけ・しょうが・万能ねぎの白い部分と※の調味料を入れスプーンでよくかき混ぜます。
全体を平らにし、ふんわりとラップをかけ電子レンジで3分30秒。
途中全体を混ぜてむらなく熱が入るようにします。
 - ③ ②をほぐし①の豆腐を器に入れ全体を混ぜ合わせます。（豆腐が崩れないように）
ラップをかけ電子レンジで1分加熱します。
味を見て足りないようなら残りのしょうゆを加えます。
 - ③ 最後に万能ねぎの青い部分を混ぜて器に盛り、好みで一味唐辛子をかけます。
- ・ 豚肉はここでは挽き肉を使っていますが、きざんだばら肉でも美味しく仕上がります。
 - ・ 豆腐は絹ごし、木綿どちらでも構いません。

・ 私たちの基本理念 ・

私たちは日常生活の支援を通してその人がその人らしくあることを守ります。

ヘルパーステーションだいとう



〒670-0962

姫路市南駅前町66番地 戸田ビル2階

TEL 079-223-5009

FAX 079-223-5019

介護保険事業所番号 2874000876

